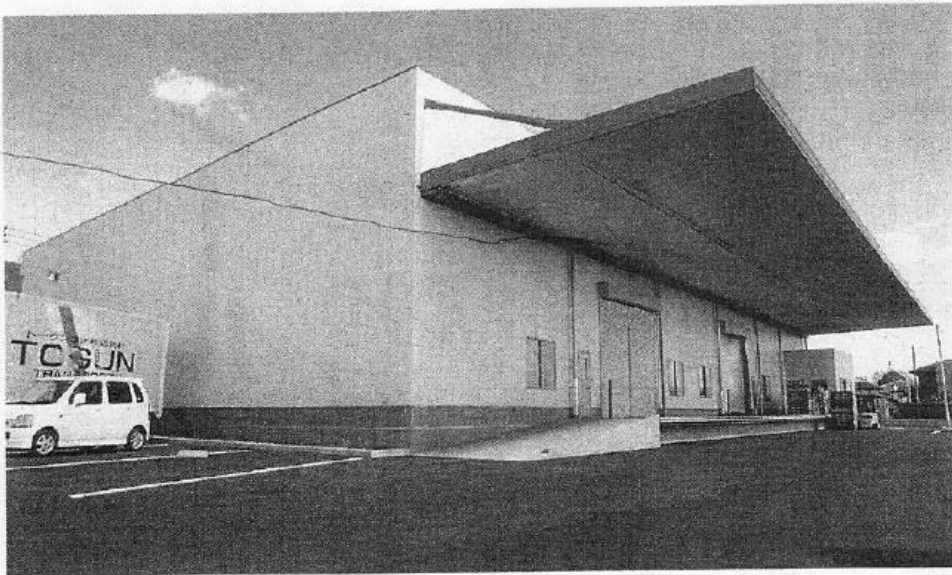


# 地中熱 物流施設で活用

## 保管スペースを定温に

### 東群運送

【群馬】東群運送（齋藤佳代子社長、群馬県桐生市）



は自社の物流施設で、地中熱ヒートポンプの活用を始めている。年間を通して温度が変わらない地下水の熱エネルギーを使い、保管スペースを一定の温度に保つ。トラック運送会社として、SDGs（持続可能な開発目標）につながる環境対策を進める。

新しい物流施設に、地中熱ヒートポンプシステムを導入。井戸からくみ上げた地下水の熱エネルギーを空調に使う。熱エネルギー使用後の地下水は、敷地内の洗車場で活用する。

電気代や水道代の節約につながっているが、齋藤社長は「環境対策が主な狙い」と説明。自社施設での地中熱利用のデータを研究機関に提供している。「自社でできることは多くないかも知れないが、こうした（環境対策の）取り組みが少しでも広がるのに役立てば」と思いを語る。

2月に稼働させた、伊勢崎物流センター（伊勢崎市）のすぐ近くの地下水の熱エネルギーを使用する物流施設

新施設は敷地面積が約3000平方メートル、床面積が約990平方メートル。定温保管スペースは2室で計165平方メートル程度ある。

（辻本亮平）